大会開催にかかる申し合わせ事項

大会に関わる全ての人は、IDカードを必ず身につけること。ない場合は入場不可とする。

試合会場へは、各チーム試合時間に合わせて来ること。（目安は、1試合前の試合中）

**【学連の対応】**

＜試合会場での対応>

１．各試合間には60分の間隔を設け、１会場最大6試合までとする。

２．無観客試合とする。ただし、事前に申請がある日本リーグ関係者（以下、スカウト）は除く。

３．試合会場入場時に、学連役員、審判員、チーム役員・選手等、全ての者を対象として、非接触型体温計（以下、体温計）による検温、消毒液による手指消毒を実施する。なお、風邪の症状がある者や体温が37.5度以上の者が出たチームは、試合会場への入館を許可しないものとする。その試合は順延となる。

４．コートの他、アップ会場、更衣室等、使用する部屋等は、可能な限り常時換気を行う。

５．前試合ハーフタイム時のコート使用は、これを不可とする。

６．各試合終了後に、試合会場やコート等の扉（取っ手）、ベンチ、オフィシャル席、ゴールポスト、試合補助道具等（モッパーの椅子、モップの柄等む）の消毒を実施するとともに、コートは最大限の換気を行う。

７．当該日の日程終了次第、コートの他、アップ会場、更衣室等、使用する部屋等、可能な限り消毒を行う。

＜消毒液等＞

試合会場で使用する消毒液（噴霧式ボトル含む）、ペーパータオルは、2020年度の大会に出ていないもしくは中止や棄権等でもらっていないチームには学連が購入し、準備する。それ以外のチームは各チームで準備する。

**【参加チームの対応】**

受付で参加者一覧表と検温結果を提出する。当日の検温結果は、測定後に記入する。

＜試合会場での対応>

１．試合会場内では、常時マスクを着用すること。ただし、試合時間内は、審判員、試合出場者は例外とする。

２．試合会場への入場は、各チームとも、登録者のうち、役員５名以内、選手２５名以内、登録外トレーナー２名以内とする。入場の際は、必ず検温及び手指の消毒を実施する。また、日本協会登録証を必ず持参すること。ない場合は入場不可とする。

３．自チーム以外の選手等と接触しないよう心がけること。また、観客席等では、ソーシャルディスタンスに配慮して対応すること。チームごとのゾーニングを行うので、必要以外はその範囲内で行動すること。

４．ベンチ登録外選手による観客席からの大声を出しての応援は禁止とする。マスクを着用すること。

＜試合コートでの対応＞

１．自チーム間であっても、ハイタッチ等の手のひらでの接触は避けること。

２．ベンチの役員及び控え選手は、マスクを着用すること。

３．ハーフタイム時、および試合終了時に、自チームが使用していたベンチを消毒すること。

４．試合終了後に、試合球を消毒すること。

＜更衣、コート外アップでの対応＞

１．更衣室を使用した後は、適宜消毒すること。なお、シャワー室の使用は禁止する。

２．次の試合のチームは、前の試合が行われている間に更衣を済ませ、それぞれ別の場所で待機（会場により指定あり）すること。なお、待機終了後、試合会場に移動する際は、待機場所を消毒すること。

3.　試合終了後、更衣を済ませたチームは速やかに帰宅すること。

以下は、トレーナー部からの要望事項ですので、全部員への情報共有を確実にしてください。

試合当日の消毒・マスクの着用

○マスクに関して

　　マスクの着用がなければ、会場内では大きな声でしゃべらない

　　試合中―スタッフ・控え選手は試合中も着用(交代時はマスクストッカーにて各自管理)

　　　　　　交代後は速やかにマスクを着用

　　　　　　※常時交代(O↔D)選手は除く

　　マスクの使用：極力、不織布マスクを着用

　　円陣を組む時(集合する場合)は声出す人は必ず着用

　　・タイムアウト時は汗を拭くためのタオル等で鼻口を覆っていれば会話は認める※1

　　・ハーフタイム時の会話は、マスク着用

　　・2分間退場の場合は、※1と同様とする

　　試合終了後は、まず速やかに着替え、マスク着用後に集合することを推奨する

○更衣室の利用に関して

　選手同士が手の届かない範囲の間隔を開ける

　着替え中(更衣室利用中)はしゃべらない

　使用箇所はしっかり消毒(アルコールを噴霧)する

○アルコール消毒：乾燥するときに効果が発揮

　　　　　　　　　乾燥するまでは使用しない(約1分)

試合中　椅子：背もたれ・座面をしっかり消毒

　　　　　　　　　アルコール量―1席：1プッシュ噴射し、拭き取るのではなく塗り付ける

　　ベンチ：座面をしっかり消毒

　　　　　　アルコール量はベンチ全面に噴射(3人がけ出あれば、3プッシュ程度)し、拭き取るのではなく塗り付ける